

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.88 2019 年 12 月 21 日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369
ホームページ：http://www.keihinkyoudougekidan.com/bunkano-nakama/

京浜協同劇団 第 93 回公演 創立 60 周年記念公演第 2 弾

60 周年第 2 弾が好評のうちに終了しました

11 月 22 日から 12 月 1 日まで、10 ステージが行われ、好評のうちに終了することができました。観劇された方、出演された方などに、感想を寄せていただきました。

「公演を終えて」 思ったこと

客演の方々とお喋りももっとしたかった～!

板垣 けゑて

この原稿を書いているのが 12 月ということもあり、今年を振り返るような感じになりますが、公演を終えた今、頭に浮かぶのは「あっという間に終わってしまったな」、ということと、少し寂しい気持ちです。

稽古期間は約 5 ヶ月。期間だけだと時間の経過を感じますが、回数としては 30 回程度なので、案外少なかったように思います。また、出演者は 3 人だけ（しかも演出助手は母）。今まで出た芝居の中では少ないほうで、非常に濃密な稽古だったと思います。この間は、私生活でも大きなイベントがありました。芝居のタイトルにもある、結婚（申し込みはなかったど～）です。

さて、作品そのものについても触れていきますが、伊賀山昌三の翻案した秋田弁『結婚の申し込み』は、とても面白い作品でした。ただ、役のとみえのキャラクターを体現することは、私にとってはちょっぴり難しかったのです。とみえは気持ちや感情がはっきりと



していて、自分の持つ考えをはっきりと相手に伝えられる人です。また、田舎の地主の娘で、厳格な父親の下で大切に育てられた彼女は、あの状況がイレギュラーであったとは言え、番助や鳶吉に対して素直に感情をぶつけられる、真っ直ぐで芯のある、強い女性なのだと思います。私は幼い頃に「おしん」をテレビで見たことで、割と影響を受けて生きてきたと思います。おしんは山形の百姓の娘ですが、育ちは違っても昔の女性は本当に強いです。私は相手に自分の気持ちや思っていることを率直に伝えることが得意ではなく、稽古が始まり、いつもはその役キャラクターに自分自身の性格が近づいていくのですが、感情の出し方や自分に沸いた複雑な感情をどのように台詞に乗せて相手に伝えるかについては、最後まで悩みました。ただ、相手は藤井さんであり、河村さんです。最後は、お二人を信頼して、舞台上で伸び伸びと芝居ができたのは、共演者のお二人のおかげだと思います。ありがとうございました。また公演中は、楽屋の皆さんに着付けや体調管理をサポートして頂きました。客演の方々とお喋りももっとしたかった～!

最後になりますが、私と京浜協同劇団との関わりを振り返ると、とても字数がたりません（笑）。お芝居



(写真©長坂クニヒロ 以下同)

(2) 劇団第 93 回公演

を始めたきっかけも、今演劇に携わっていることも、京浜協同劇団のある“この地”にあり、日常の中にある、“この日”という一直線上にあるのだということに改めて実感します。ただ私自身は近いところで京浜とは違う毛色の芝居をしてきましたし、ここ十年ほどは演劇以外のフィールドにいたりしたことで、今回の公演は原点に戻ってきたような機会だったようにも思います。

今日という、“この日”に、京浜協同劇団の公演に携われたことに心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。創立 60 周年記念公演、おめでとうございます。

(協力出演者)

喜劇二本立て観劇

笑った! たのしかった! お腹すいた!

山本 嘉子

昨年の秋、和田さんの劇団の公演「おりん 姥捨て異聞」を楽しみに迷い歩き、劇場をやっと見つけました。住宅街に住みこんでいる様なまさに市民の劇場だ!と共感を覚えました。

今回 2 回目の観劇中、休憩時間中にそっと「感想、1200 字、12 / 7 迄」と書かれたメモの入った封筒を渡され、「これは怖い所に入っちゃった!」とショックでしたよ。

○結婚の申し込み

チェーホフの原作とはいえ、まんず登場したのは我が日本国のちょっと昔の農家の青年、立派な身体に羽織袴できめ、座敷に座ったはいいが、そわそわとおちつかない、汗をふいたり髪をなでたり、咳をしては何回も座り直したり、“ハハー今日はお見合いだ”とみていると自ら「オラーもう 38 歳! 嫁がほしいよー! 嫁ならとみちゃんに決めているんだ」とのたもう。



でも、ちゃんとプロポーズできるのかい? とみている方も心配になる(実は私の次男も 38 歳独身、身につまされます)。するとそこへとみちゃんの父さん登場(粋で優しげ、わたしのタイプ)。青年と楽しげな会話をし励まし、とみちゃんを呼ぶ、さあ本命とみちゃん登場。明るくおちゃめで可愛い、ちょっと強気そうな娘さん。いよいよ 2 人の見せ場が始まる。幼なじみの 2 人だもの、昔遊んだ楽しい思い出話や、お互いにどんな時に好きになったとか、甘い話ができればいいものを、大地主の娘と農家のあととりともなると、しゃべっている内に昔の畑の貸し借りのこととか、土地の境界線のこととか、何とも色気のない現実的な話になっていき、ああだったこうだったとケンカ腰になる。あれあれ!? 大丈夫か? そしてこの青年はちょっと心臓の動悸が激しくなる病気があって、興奮して鼻息あらくとみちゃんにつかみかかる。父親が入って来て何だ何だどうした、あの畑はおらんちのものだ等と



興奮しだし、奥から刃物返もちだす。ハラハラするやら、おかしいやら。青年が苦しくなって倒れたのをきっかけに 2 人はそうだ、嫁の話に来てくれたんだ!と彼の気持ちを思い出し、介抱する。大騒ぎした照れくささの中、3 人は嬉しさに大笑いになってプロポーズにこぎつけ、ヤレ、めでたしめでたし(あーあ、我が家もこうなりたい!)

○死神

落語といえば私は小三治さん、亡き志ん朝さんが好きで、DVD をみたり、たまに末廣亭にいったりします。死神もきました。落語はまさに一人芝居、聞いている内に情景が浮かび、共感して笑いこけたり、日本の話芸の中でも逸品だと思います。落語が芝居になるのを見るのは初めてで楽しみに来ました。幕が開くと、ヒョーイと寄席をぬけてきた様な落語家登場、一席始まって、そしてすんなり芝居の世界へいざなう。

狭い舞台を縦横に使い、役者さん一人一人がまさに適役、大張り切りでみている方もはりきってしまいま

す。特に「男」役の彼の鼻息は荒く、堂々と凶々しく強欲だけど気っぷのいい、ニセ医者 of 男になりきっていました。かたや不気味で病的な、いかにもそれらしい死神（お家に帰ったら風呂でよく汗を流し病っ気を落としてくださいね）。そして未来の宝、うちの孫より小さいあおばくん、もう役者の呼吸になってましたね。たのしみ！

布団が生きものの様に出たり入ったりするところも面白い。最後のローソク達が、1本ずつ違う姿をしているのもすごい！ 思わず出たハークション！ローソクが消えた瞬間のシン！とした空気、そして爆笑！！ いけてました。ありがとうございました。

帰りにお腹がすいて、落語の帰りは日本ソバだ、とみたらお休み、しかたなく駅前でもラーメンをおいしく食べました。（文化の仲間会員）



その兆しが見えた舞台でした

鈴木 龍男

京浜協同劇団創立 60 周年記念公演第 2 弾「結婚の申込」「死神」拝見しました。

60 周年記念公演おめでとうございます。社会派の京浜協同劇団としては、斬新な「喜劇 2 本立て」という企画でワクワクして劇場に足を運びました。なによりも若手が主演の 2 本立てで新鮮な舞台でした。しかも、裏方も出演するという隠し味も素敵でした。

「結婚の申込」は、チェーホフを秋田の言葉で上演という設定が秀逸でした。もう、それだけでもホンワカとした空気が生まれ、ほっこりさせて頂きました。河村さんと板垣さんのカップルの自然なごちなさ癒されました。親父役の藤井さんは東北出身だけに、お国言葉があまりに良くて、喋る度に可笑しくてたまりませんでした。土地や財産をめぐる話なのに、ギスギスしないで、こんな人たちが居たら世の中もう少しよくなるなあと感じました。チェーホフの翻訳だとなんか都会のお嬢さんの話になって、親近感が薄くなり



ますが、農村の世界にもっていったことで、元々日本のオリジナル作品ではないかと思わせる楽しい舞台でした。

「死神」は、幕末から明治にかけて多くの創作落語を残した、三遊亭圓朝の落語を元にしてしています。圓朝は、グリム童話の「死神の名付け親」を元に翻案して落語にしたと言いますから、面白い。落語の方は演者によって様々なサゲがあり、話中で唱える呪文にも色々な種類があります。舞台ではどうするのかと、楽しみにしていました。もともと、わりとシリアスな話で、背筋が寒くなるようなところもあるのですが、大谷さんの死神がハマりすぎて出てくるだけで笑ってしまいました。田中さんも持ち味の人の好きが役にぴったりで楽しめました。人の命をロウソクで表すとは、圓朝のアイデアは凄い。原作の設定は知っていましたが、ラストの出てきた沢山のロウソクには度肝を抜かれました。裏方の大仕事が生きていました、しかも、みんなちゃんと灯っている！ 命がかけがえのないものであることを怖さの中にしっかりと刻み込ませてくれます。

京浜協同劇団は 60 周年を経て、どこを目指して行くのでしょうか。歴史ある劇団の今後を考える時に常に課題となるのが、次代の育成です。私のいる前進座も 2021 年に創立 90 周年を迎えます。劇団にとって最大の財産は、人材です。劇団の今後を担うスタッフ・俳優をどう育てていくかが、どこの劇団でも最優先課題



(4) 劇団第 93 回公演

となっていくでしょう。そうしてこそ、世に問う舞台を生み出すことができるように思います。今度の公演は、その兆しが見えた舞台でした。供に楽しく頑張っていきましょう。

毎日のように流れる世間の嫌なニュースを吹き飛ばす、楽しいひと時を過ごすことができました。ありがとうございました。(前進座)

「死神」演出のしごとを終えて

劇団歴 45 年目にして初めての演出の仕事

護柔 一

初めての演出。半年間の稽古を重ね、不安と期待で幕を開けた。客席に大きな笑いが溢れ、多くの観客に受け入れられた「死神」の舞台。60 周年記念の第二弾、喜劇二本立の企画は、公開稽古の不安を払拭し、無事に 10 ステージを終えることが出来た。どの回も客席に笑いが溢れ、成功したんだ！ 連日満席でこの企画が無事に終わったんだ！ 出演した全員と素直に喜んでいきます。

我々のメッセージを笑いのオブラートに包んで発信できた舞台。観客は声を出して笑い、愉しんでくれました。出演者にとっても演出した私にとっても、創造活動の貴重な経験になるでしょう。「新たな地平を開いた」(萩坂心一氏)と感想も頂き、本当に嬉しく思っています。

劇団歴 45 年目にして初めての演出の仕事は、「実に楽しいこと」(パンフレット)でした。昨年秋の作品選定以降、落語「死神」の立体化に向け、先ず自分が観て楽しめる芝居を創ろうと、観客目線で稽古を進めた 1 年間でした。その過程で出演者のみんなと一緒に、たくさんの愉しみも見つけることができたし、その喜びが何よりも力になりました。

「死神」に賭ける一人ひとりの思いがあり、それを一つに結束させたエネルギーが笑いの花を咲かせることにつながったのです。《やってみたい事＝観客の立場で愉しむ事》まず真っ赤な高座と定式幕をつくりました。主役の田中君も死神の大谷さんも、演出の意図



を理解し始めたのはこの頃からだったのかも知れません。稽古がオモシロくなってくればシメタもの。はまってしまえばこっちのもの。全体を通して初めて解ることもたくさんありました。「結婚の申込」チームとの競争だ、こっちの方が絶対面白くなる！ 無理にでも自分を騙して、張り合う気持ちに拍車をかけていたのかも知れません。

小道具のがこうさん+鹿児島から駆けつけてくれた浜島さん(電気屋)の最強コンビが作った、その数 78 本！ 観客を驚かせた蠟燭の灯り。京浜にしか出来ない「芝居」の No. 1 はあの蠟燭群でした。

がこうさんのネバリと、浜チャンの技術、6 基の蠟燭台の製作は伊藤さん(大道具)でした。袖幕吊りと、上方パネルの印刷は柳沢さん(貼る仕事の助っ人は城谷さん)。多くの転換も舞台監督の采配が効を奏し、芝居の流れに合わせ見事でした。定式幕と 2 組の布団は若菜さん。「衣装、小道具、音楽、配役…、題材に着眼することも含めて京浜協同劇団の総合力の結集です」(石倉勲氏)。全くその通りです。思いつきやヒラ



メキを形にしてくれたスタッフの力。そして照明の前川さん、三味線の三戸さん、様子を見に来てくれた内山先生。陰の黒幕は安達さん。みんな 60 年目の我々が持っている素晴らしい財産です。人との繋がりはいくらからも大切にしていきたい。

半年間、皆さん本当にありがとうございました。そして、お疲れサマでした。最後に忘れちゃいけない酒屋の小僧、台本が出来てすぐにあおば君に手紙を書きました。一人の「演劇の人」宛の手紙でした。出演してくれてありがとう！ ご褒美は一両小判……じゃダメか。あおば君には敵いません。

あっ、思い出した！ もう 30 年以上前、宮原喜美子、吉田理恵、箕輪はるか、この 3 人娘の研究生担当者として、「ウサギと亀」・「カチカチ山」の御伽噺をゴチャマゼにして楽しみながら創作劇を、創ったんだ。演出の愉しみは、この時にかじっていたんだ、きっと。

(京浜協同劇団)

劇団員による劇団員紹介 第7回——藤井康雄さんによる瀬谷やほこさん紹介

困難も病気も乗り越えてきた

“落ち込んでもしようがないでしょ”

京浜協同劇団 藤井 康雄



私の劇団への参加は第4期研究生（1961年）だが、2年ほどで家庭の事情で休団、復帰したときに彼女は第8期生を経て既に活躍していた。

当時は50人の劇団を目指そうと研究生制度にも力を注ぎ、着々とその目標に近づいていた時期、若い熱気と活力に満ちていたのである。勢いのあるときはすべてにおいて活気に満ちていたし、当然劇団員どうし恋が芽生えることも多かった。ご存知のように、第1期生であった城谷護と結婚する。なんと22歳、もちろん会費制で200人を超えるにぎやかな祝う会だったという。

創立メンバーに続く第一世代としての苦労をそれ以来歩むことになる。「トキコ」という計量器メーカーに勤務しながらの劇団活動。当然、家事育児と、母親としての仕事も切り盛りしなければならない。その頃はまだ第一次稽古場がなかったから、南加瀬の工場の倉庫をお借りしていたことがあったが、長男の創一君をコンクリートの床に段ボールを敷いて寝かしつけての稽古を余儀なくされていたことを思い出す。今は亡き室野定子さんや根倉藤子さんなども母親劇団員として奮闘していた。1970年に建てた木造2階建ての第一次稽古場にはその一角に保育室を設け、専門の保母さんをお願いし、母親の稽古をバックアップしたのは当然の成り行きだった。

当時の母親劇団員の心情を唄にしたものがある。蒔村こずえ作詞、護柔一作曲の「子連れ女優のブルース」である。

♪今日も遅まで稽古場通い 子ども背中にペダルを踏めば 骨に骨に沁みます 向かい風

(アア 子連れ女優のブルースよ)

♪馬鹿だチョンだとダメ出され 悔し涙に明かりが潤む ヒスもヒスも起きます 哀れわが子

(アア 子連れ女優のブルースよ)

♪掃除飯炊きお洗濯 これじゃ増えます顔のしわのらぬのらぬドーラン うらめしい
(アア 子連れ女優のブルースよ)

ともあれ、瀬谷さんは持ち前の負けん気でこれらの困難を乗り越えるとともに、実験的な個人企画にも挑戦してきた。「トイレはこちら」(別役実作)、「名医先生」(ニールサイモン作)などの上演である。「ドリトル先生、怪獣としゃべる」、「雨やどり」、「冬の提灯」などの演出も手掛けた。

朗読歴も長い。15、6年になる。地元の古市場小学校での読み聞かせを続ける一方、仲間との朗読発表会も持っている。

しかしながら、60を過ぎた頃から血液の癌といわれる難病に見舞われることになり、次いで肺癌にもなり、入退院を繰り返すようになった。しかし、それも克服し、今は元気に活動している。本人曰(いわ)く。「落ち込んでもしようがないでしょ。命持つもの、いずれそれをなくすんだから」けだし名言である。

腹話術師しろたにまもるはグローちゃんとの掛け合いでそれをネタにしている。「うちの奥さんがなぜ治ったかと言うとね、自分の癌細胞に言って聞かせたの」「なんて?」「ガン君、あんた今私の体の中で騒いでいるけど、私が死んだらあんたも死ぬんだよ。おとなしくしなさい!」「はい!」

この調子では150歳まで大丈夫。元気で劇団活動を続けて欲しい!



『音楽の「根」を掘る 安達元彦』を題材にした茶話会のご案内

2018年11月に刊行された標記の本はたいへん興味深い本です。この本を題材にした茶話会を企画しました。今回は第1回目として「安達元彦とたつの素子」を取り上げます(93-103頁、475-484頁、557-562頁など)。どなたでも参加できますので興味のある方はご参加ください。

日時 2020年1月19日(日) 15:00～17:00 会場 スペース京浜 参加費 無料 本をご持参ください
連絡先 文化の仲間事務局 山木 (090-7218-3551)

連載 「京浜協同劇団」と私——第 10 回

オーケストレーションという作曲のための勉強

岡田 京子

東京に帰って来た私は、とりあえず、大久保と新大久保の間の 3 畳のアパートを借り、アルバイトを探しました。ちょうどその時期、「うたごえ喫茶」がはやり出していて、アコーディオン伴奏者は右から左に仕事があったのでした。秋田で覚えた私のアコーディオンも下手ながら役に立ち、夕方から夜 10 時ころまで弾くと、部屋代を含めて生活していくことができたのでした。

そして毎月、(時には月 2 回も) 清瀬先生の自宅までレッスンに通いました。新宿から小田急線で 20 数分の祖師ヶ谷大蔵まで行き、さらに 15 分ほど歩いて通うこの道を、以後何年通ったことでしょう。

こういう日々が始まって何ヶ月かたった頃、松谷みよ子さんのご主人の瀬川拓夫さんからの誘いがあり、当時まだ内幸町にあった NHK TV の子ども番組に出演している「太郎座」という人形劇団の音楽をやらないか、というお話があり、これは私にとってすごく魅力のあるものでした。歌も入ってくる 1 回 15 分ほどの番組の連続なのに、その音楽の演奏は、N 響オーケストラのメンバーの方たちを何人使ってもいい！ というものでした。少々だけ作曲料もいただけるし、その上「NHK」と印刷してある立派な五線紙を、

何枚使っても良かったのです。今思っても、夢ではないか！ と思うほどの、私にとってこの上ない勉強のチャンスでした。

小編成であっても、きちんと書いていけば、それはオーケストレーションという作曲のための勉強になるのです。事実、清瀬先生は、それを察して、ほんとうに一つひとつをていねいに見ていただきました。もともと、そんな夢のような時はすぐ終わり、渋谷に移っていった NHK は、早速方針を変えて、二度とそういうすてきなこと (NHK とすればバカなこと) は、すぐなくなったのでした。

でも、この時知り合った高田千鶴子さん (現「保育と人形の会」) とは、まさに 60 年の親友となったのです。

次に起こったことは、当時の演劇界の中で頭角を現し始めていた新制作座から、「今後、歌と踊りのある舞台を作っていきたいから協力してほしい、というお呼びがかかりました。このことは、良い意味でもその反対の意味でも、大きく作用して、今日の私になっていることを今思うのです。

第 13 回

お正月お楽しみ会

日程 1 月 12 日 (日) 14:00 から

会場 スペース京浜

入場無料

出し物 子ども腹話術・いきいき体操・獅子舞・朗読・昔話・
ピアノ演奏・輪投げ大会 など

劇団稽古場近隣の方たちに、気軽に稽古場に足を運んでもらおうというこの企画も、13 回目を迎えます。リピーターの子どもたちも増えています。ぜひのぞいてみてください。

主催 京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間



第 39 回 かわさき演劇まつり

演目は「冒険者たち・ガンバと 15 匹の仲間」

京浜協同劇団 柳沢 芳信

来年 2020 年は演劇まつりの年ですが、前回の「注文の多いどんぐりと山猫と料理店」に引き続き今回も制作の任に当たることになりました。よろしくお願いたします。

どんぐりの時は、上演日まであと 8 ヶ月というタイミングでようやく演目と演出が決まってそこから本を書き始めるという綱渡りの仕事でした。しかも初めての制作の仕事で思い込みと勢いだけで突き進み、様々な軋轢を生んでしまい、つらい仕事ではありました。細部に齟齬は生じたものの、1,600 名まで集客を伸ばし、大西演出の力もあり参加した市民は大いに楽しんで成功裏に終わることが出来ました。今回は同じ轍を踏まぬようにしたいと思います。

今回、演劇講座準備の過程で、来年の演劇まつりの演目を決め、演出者を決めることが出来ました。すでに脚色も終えて、学生による試演まで終えております。12 月に予約しないと確保できない市の掲示板もすでに予約を済ませました。これは私の知る限りでは初めてのことで画期的な出来事です。

演目は、これまで候補に挙がりながら実現できなかった「冒険者たち・ガンバと 15 匹の仲間」を新脚色で舞台化します。よく知られた作品ですが、街のネズミがイタチに襲われた島のネズミを助けに行く、ゆめと冒険、愛と勇気のドラマです。大きな困難に向かって諦めずに勇気と知恵を振り絞って闘う姿が心を打ちます。演出は、大谷賢治郎氏。川崎では「劇団わが町」の演出助手として関わってきました。海外で研鑽を積み、近年青年劇場や銅鑼などで演出して実力を認められている次代を牽引するであろう若手の演出家です。

今回演出者を選ぶに当たり、KTC のまんぼさんから推薦があり、2 月 11 日の「みすず凜々」千穠楽の直後にアポを取り、恐る恐る打診したところ「私が演劇の道に入るきっかけになった作品がガンバなんです。声をかけてくれてものすごく嬉しい。」そして、日程は大変厳しいがナントカしたい。と了解を取り付けました。それまで知らなかったのですが、大谷氏の奥様は、全リ演にもよく顔を出している銅鑼の庄崎真知子さんと言うことで、深い縁を感じ一気に距離が縮まりました。

脚本については、小田健也版と平石耕一版を渡し、「オリジナルもあり」との事を含めて検討して頂きました。「ガンバ愛」強き大谷さんが人の作品で満足するはずは無いと見込んでいたのですが、案の定「書きます」しかも「今指導しているゼミで演ってみます」と言うことになりました。11 月 9 日に上演があり、見させて頂きましたが、エネルギーで感動的な作品に仕上がっていました。筋を知っていても、というか、筋を知っているからこそなのかもしれませんが涙を抑えられませんでした。

「完全版」を印刷して稽古場にありますので、読んでも頂きたいと思います。チャンと 15 匹が出てくる作品です。これまで 15 匹での舞台化は無いようなので、ガンバファンにとっては魅力的な作品となるでしょう。事務所においてありますので興味のある方は是非お読みください。制作としては、今回劇団わが町や、なかはらミュージカルなどとの連携を育み、2,000 人の集客を達成したいと思っています。ご協力をお願いします。

第 93 回 かわさき演劇まつり公演

冒険者たち

ガンバと 15 匹の仲間

原作 斎藤惇夫 / 脚色・演出 大谷賢治郎

日程 2020 年 7 月 11 日 (土) 昼・夜
12 日 (日) 昼

会場 多摩市民館大ホール

問合せ 川崎文化財団 044-272-7366

実行委員会 044-511-4951 (京浜協同劇団)

12 月 16 日締め切りで出演者を募集、年内にオーディションを行い出演者を決定します。

公演の詳細は決まり次第チラシなどでお知らせします。



斎藤惇夫 作 斎内正幸 画 岩波書店刊

◎文化の仲間通信◎

◆いちばん星 第27回コンサート

こころの瞳で みつめよう 友を 未来を
日程 2020年1月13日 14:30 開演
会場 川崎市総合福祉センター エポックなかはら
(JR 南武線武蔵中原駅徒歩1分)

曲目 心の瞳／第1部 あの日の青春像(時代・ふるさと・ヨイトマケの唄・若者たち)／第2部 みんなで歌おう／第3部 韓国・朝鮮の歌(故郷の春・鳳仙花・朝露)／第4部 平和のステージ(混声合唱組曲「遙かなる海へ」)

料金 指定席 1,500円 自由席 1,200円
障がい者・小中高生 300円

指揮 山寺圭子／ピアノ 中山真理
問合せ・申込み 吉田 090-9147-2829

◆神奈川のうたごえ 70周年記念祭典

日程 1月19日(日) 14:00～
会場 茅ヶ崎市民文化会館
(JR 東海道線茅ヶ崎駅北口徒歩8分)
主なステージ 合唱ステージ(「ぞうれっしゃがやってきた」より、「湘南の風に乗って」より)／祭典合唱構成「生きる」／アコーディオン演奏／郷土の太鼓と踊り ほか

ゲスト 吉川忠英
料金 (全席自由) 一般 1,500円
中・高生・障がい者 500円 小学生以下無料
問合せ・申込み実行委員会 045-212-2447
kanaongakucenter@cd.wakwak.com

◆田楽座 町田公演

ココロ踊る、まつり芸能舞台！
日程 1月25日(土) 11:00～／15:00～
会場 和光大学ポプリホール鶴川
(小田急線鶴川駅北口から徒歩3分)
演目 水口囃子・八木節・とりさし舞・こきりこ節・秩父屋台囃子ほか
料金 大人 3,500円 子ども 2,000円(全席自由)
問合せ・申込み 実行委員会(山本) 090-3206-0283

◆劇団民藝公演 白い花

日程 2月14日(金)～22日(日)
13:30～／18:30～(詳細問合せ)
会場 紀伊國屋サザンシアター
作 ナガイヒデミ／演出 兒玉庸策／出演 別府康子・中地美佐子・飯野遠・杉本孝次ほか
料金 (全席指定・税込み) 一般 6,600円／夜チケット 4,400円 [夜公演全席] U30(30歳以下) 3,300円 [劇団のみ取り扱い、要証明書] 高校生以下 1,100円(枚数限定) [劇団のみ取り扱い、要証明書]
柚木百合は父・徹男と2人で暮らしている。38歳でまだ独身だが、かつて一緒に村を出ようと言ってくれた男がいた。……
問合せ・申込み 劇団民藝 044-987-7711
[月～土 10時～18時]
劇団民藝青山事務所 03-3401-5131
http://www.gekidanmingei.co.jp/

◆重要文化財 旧東京音楽学校奏楽堂で聴く

心に寄り添う日本の歌Ⅱ
日程 2月15日(土) 14:30(終演 16:30 予定)
会場 旧東京音楽学校奏楽堂(上野公園内)
出演 Jソロイスト(女声アンサンブル)・有田真恵・大音絵莉・薮内俊弥・山口佳代(ピアノ)・田山萌絵(フルート) ほか
予定曲 日本唱歌四季のメドレー(早春賦・荒城の月・

夏は来ぬ ほか)・ゴンドラの唄・見上げてごらん
夜の星を ほか
料金 (全席指定) 前売 3,200円 当日 4,000円(展示室観覧料含)
明治・大正から昭和まで、懐かしい唱歌・童謡・抒情歌たち……

問合せ・申込み 日本声楽家協会 03-3821-5166

◆和太鼓 LIVE わだち

日程 2月16日(日) 14:00～／17:00～
会場 川崎市アートセンター
(小田急線新百合ヶ丘北口下車徒歩3分)
出演 古里祐一郎・友野龍士・尾上綾菜・村主新・玉田耕太郎ほか

ゲスト 古石亞弓(ソプラノ)・佐藤文雄(ピアノ)
料金 3,500円(一律・全席指定)
川崎太鼓仲間響出身で、プロ活動で活躍している奏者を中心とした和太鼓ライブです。

主催 和太鼓打楽音
問合せ・申込み 玉田 080-2043-8175
吉田 080-1038-9089

◆第1回 シビック名画座

木下恵介代表作3作一挙上映
日程 3月6日(金) 10:30～17:30
会場 文京シビックホール小ホール
上演作品 喜びも悲しみも幾年月・カルメン故郷に帰る・野菊の如き君なりき
料金 全席自由 500円(税込み・途中入退場可)
問合せ・申込み シビックチケット 03-5803-1111

◆劇団銅鑼公演 No.54 蝙蝠傘と南瓜

日程 3月19日(木)～3月30日(月) 詳細問合せ
会場 銅鑼アトリエ(東京都板橋区)
作・演出 詩森ろば／出演 林田麻里・館野元彦・山形敏之・金子幸枝ほか
チケット 一般発売 2020年1月15日(水)
妻、日本初の女性写真家といわれた島隆。夫、和製ダ・ヴィンチといわれた島霞谷。幕末から明治を駆け抜けたオモロイ夫婦……。
問合せ・申込み 劇団銅鑼 03-3937-1101(10時～18時)
info@gekidandora.com

■文化の仲間ギャラリー■

大谷 敏行①

戦時下の徴用工という奴隷	馬毛島は戦端開く橋頭保	税金を食い物にする まったりこと政	桜から散り際学ばぬ人があり	真相はゴミだけが知る深層よ	大臣は余人をもつてすぐ替える 二〇一九年二月二四日『赤旗日曜版』掲載	表現の不自由展のアイロニー 二〇一九年九月一日『赤旗日曜版』掲載	「厳選」大谷敏行の川柳塾
--------------	-------------	----------------------	---------------	---------------	---------------------------------------	-------------------------------------	--------------